

平成25年度第3回 にいがた住まいの基本計画推進有識者会議 会議速報

【開催概要】

- 日時 平成26年2月17日（月） 午後2時00分～3時30分
- 場所 新潟市役所 第1分館6階 1-601会議室
- 出席委員 委員長 五十嵐 由利子、副委員長 黒野 弘靖、委員 高松 智子、
委員 佐藤 由香子、委員 朝妻 邦夫、委員 池田 博俊、委員 遠藤 良博
- 事務局 住環境政策課 課長 川瀬 正之、課長補佐 清水 隆志、
課長補佐 石渡 一彦 他3名
- 傍聴 0名
- 報道 1名

【会議概要】

1. 開会

（省略）

2. 新潟市の住生活の現状と課題の再整理について（資料1～3）

前回会議で委員より意見をいただいた新潟市の住生活の現状と課題について、現状のデータの追加資料等を示し、再度、課題についてまとめたものを説明。

○委員発言概要

- ・「公共交通軸に接する地域」とあるが、接する地域の範囲について判断が難しい。「郊外」という表現に置き換えたかどうか。
- ・「まちなか」とあるが、「都心居住」というキーワードも入れてほしい。
- ・下水道の排水能力に頼るだけでなく、雨水浸透ます・貯留タンク設置は地盤から1mくらいの雨水の浸透には有効であるので、助成制度などを積極的に周知していくことが必要ではないか。
- ・「コミュニティの形成や活性化」とあるが、高齢者にとっては、今までのコミュニティが途切れないように維持すること、コミュニティの崩れを防ぐことが重要なので、「維持」という表現を追加したらどうか。
- ・「地元工務店等」とあるが、大工に限らず、工場生産ではない建具などの専門業者も減少してきている。「専門業者」又は「専門業種」という表現を追加したらどうか。
- ・「まちなかに各種のサービス機能を集積」とあるが、高齢者にとって、まちなかに魅力的な店舗や日常で楽しく遊べる施設が少ない。豊かに暮らすためにまちなかに足を向けてもらえるよう、ハード面の整備だけでなくソフト面の充実が必要ではないか。

3. 課題解決に向けた基本的な施策の方向性について（資料4）

次第2で示した現状と課題から、課題解決に向けた基本的な施策の方向性について「安心・安全」「高齢者」「子育て世帯」「住宅セーフティネット」「住宅性能」「住宅ストック」「身近な住環境」「まちなか・公共交通軸沿線」「田園集落地区」の9つのテーマに分類して説明。

4. 新計画策定の今後の進め方について（資料5、6）

新計画の全体構成（案）と策定業務スケジュール（案）をもとに、策定業務の来年度の進行予定について説明。

5. 閉会

（省略）

【配布資料】

- ・資料1 「新潟市の住生活の現状と課題」に関する委員意見等について
- ・資料2 新潟市の住生活の現状（追加）
- ・資料3 新潟市の住生活の現状と課題
- ・資料4 基本的な施策の方向性（案）
- ・資料5 新にいがた住まいの基本計画の全体構成（案）
- ・資料6 平成26年度 新にいがた住まいの基本計画策定業務スケジュール（案）
- ・参考資料 新潟市浸水ハザードマップ（中央区・東区）